

イチジクの育て方

イチジク・・・科名：クワ科 イチジク属 落葉低木
原産地：西アジア～アラビア半島南部

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
生育サイクル							夏果		秋果			
根付け												
整枝剪定												剪定
肥料												

イチジクは消化を促進する酵素のほか、ビタミン類も豊富に含む健康果実です。また食物繊維も豊富で、カルシウムも多く含みます。無花果と書かれる由来は、粒々の小花が肉厚の花たぐに囲まれたまま実が大きくなるので、花が咲かないのに実がつくように見えるためです。

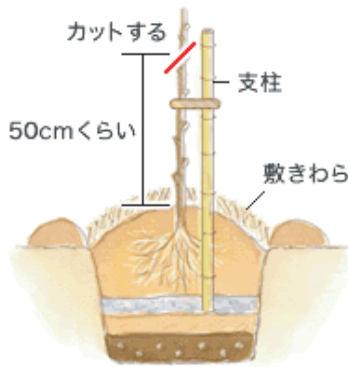
イチジクの育て方

■栽培条件

イチジクは暖地向けの果樹で、栽培適地は関東地方以西です。品種によっては、北海道南部で栽培できるものもあります。日当たりがよく、風当たりの少ない場所を好みます。また過湿を嫌います。砂質土壌は乾燥気味になるので適しません。生育が旺盛で水分蒸散量が多いので、夏期の乾燥時は水切れに注意します。鉢植えの場合、寒冷地では冬期は室内で管理します。

■植付け

庭植えは12月～3月に植えます。イチジクは耐干性も耐水性も弱いいため、水はけと保水性がよい土壌が適します。植え穴は植付ける1ヶ月前までに準備し、有機物や石灰等を入れて準備しておきます。鉢植えは3月中旬～下旬に植えます。乾燥しないように敷きわらをします。浅植えにします。風で倒れないように支柱をします。弱アルカリ性～中性を好むので、毎年石灰を施すとよい。



■摘花、人工受粉

特に行いません。

■主な品種

品種	特徴	収穫時期	収穫量	樹勢	大きさ
樹井ドーフィン	中生 夏秋兼用種 ※ 暖地向き・疫病に弱い・耐寒性弱・耐水性弱	7月上・中旬 8月中旬～10月下旬	豊産性	中	大果
ホワイト・ゼノア	中生 夏秋兼用種 ※ 耐寒性強・果皮緑色・間引き剪定主体に行う	7月上旬 8月中旬～10月下旬	普通	強	中果
達楽柿(日本種)	晩生 秋果専用種 ※ 耐寒性強・間引き剪定主体に行う	9月上旬～11月上旬	豊産性	強	大果
カドタ	中生 夏秋兼用種 ※ 果皮緑色・着果良好	7月中旬 8月中旬～10月中、下旬	普通	強	小果
ブラウン・ターキー	晩生 夏秋兼用種 ※ 耐寒性強	6月下旬～7月中旬 8月下旬～10月下旬	普通	やや弱	中果
セレスト	早生 秋果専用種 ※ 耐寒性強・果皮紫黒色・間引き剪定主体に行う	8月上旬～9月上、下旬	普通	中	小果
ネグロ・ラルゴ	中生 秋果専用種	8月中旬～9月中旬	普通	中	中果

管理方法

■肥料

品種によって異なる結果習性に合わせて、適切な方法を選びましょう。
秋果専用種：今年の新梢（1年枝）に果実をつけるので、2年枝は必ず切り戻し剪定をします。

【方法】 枝の強さに応じて2～5芽を残します。込んでいる枝や徒長枝は間引きます。

夏秋果兼用種：夏果は2年枝の先端、秋果は1年枝の葉のもとに開花結実するので、剪定には2つの方法を併用しますが秋果が中心なので、秋果型を優先します。

MEMO 夏果と秋果

夏果…前年の秋、前年枝（2年枝）の枝先についた幼果が冬に発育を停止し春先から再び発育して6月下旬～7月上旬に成熟するものです。

秋果…春から伸びる新梢（1年枝）に花芽をつけ、それが、8月中旬～10月中旬まで、枝の基部から上部へ徐々に成熟するものです。



■摘果

十分に生長した木については、摘果は必要ありません。但し、新梢（新しい枝）の発生が少なく、よく伸びた枝に実がたぐさんつく場合は早めに摘果して、1枝あたり8～10果にします。

早く成熟させるために

成熟を促進させるために「オイリング」という処理を行います。オイリング処理を行うと、通常より7～10日間ぐらい早く収穫できます。



適期： 果樹の肥大が停止し、果皮の緑色が薄くなり、穴の部分が赤くなって開きかけたころ（成熟する10～15日前）

方法： 果実の頂点の穴の中にごま油やオリーブオイル、サラダ油、大豆油などの植物油を1～2滴スポイトやストローなどで注入します。

ポイント： 適期をはずさないことです。時期が早いと実の発育が悪くなり、収穫ができなくなります。時期が遅いと実がだめになることはありませんが、成熟促進の効果ははっきりと現れません。